

どんな形でも生きているって大切なんだよ。

横須賀学院中学校 三年 菅野 亜維

私の家族は両親と七一歳の祖父と六八歳の祖母と私の五人家族です。今は皆、元気に暮らしていますが、私が五歳の時、もともと心臓が悪かった祖父が六十歳という若さで倒れました。そして一時、心肺停止でした。その後遺症で脳に障害が残りました。それまでは別々に暮らしていましたが、私が小学校の入学と同時に祖父達と暮らす事になりました。これを、きっかけにして祖父の病気の事が少しずつ分かるようになりました。でも一番、悲しかった事は、家族や自分の兄弟の名前を全部、忘れてしまった事です。どうしても私の名前を分かってほしくて、すぐに忘れられるのは承知で「これ誰・・・」「知らねえ」とか「うん××」「ちがう」「○○だよ」という感じで祖父に会うと毎回の様に聞いていました。まずは下の名前をスタートに覚えてもらえるまで毎月のようにテストをしました。次に名字、歳、学年と項目を増やしていきました。この努力が実り今では「これ誰？」と聞くとスラスラ答えてくれます。とても嬉し

いです。

そして一番、心配な事は、一人で徘徊してしまう事です。住所も電話番号も分からないので家から一步出てしまうと帰って来れないのです。私が小学校一年の時、学校から「お迎えお願いします」という電話で出かけてしまい、いなくなってしまった事やタクシーを拾って昔、住んでいた静岡県や生まれ育った町の山梨県に行ってしまった事もありました。時には近くのお店に何時間もいた事もありました。なぜ怪しまれないかという見た目目が普通の人と変わらなからです。この出来事は、まだまだ数えきれないほどあります。いなくなった時、前に行った所には行きません。探しようがない為に祖父が何処に行くか家族は見当もつきません。だから、どのようにして、その目的地に行ったかも分かりません。どこかへ行きたくなるのは、よく分かります。いつでも、いなくなつて帰って来ない時は無事に生きて帰って来てほしいと願っています。

最近、尿や便の失禁も分からなくなつてしまいました。座布団を濡らしてしまつたり、ろうかに便をポロポロ落として歩いたりする事が、多くなつてきました。初めの頃は便を見つけると此れ見よがしに大きな声で叫んでいました。なぜなら正直「汚い」と思ってい

たからです。しかし、尿や便は一日一回の失敗に、とどまらず何度も、やってしまう時があります。でも、祖母がその汚れた衣類やシャツなどを手洗いで黙々と泣き事や文句を言わずに洗っている姿を見てすごいと、いつも思っています。ある時、母が私に然り気なく「やっぱり誰でも年をとっていくのは順番だから、もし私が年をとって、こんなになったら、宜しく」と言われました。もちろん祖母のこの姿を見てきたので、やるつもりです。でもよく考えたら自然の成りゆき通りだと改めて感じました。

そして病気になってからも変わっていないのが祖父の性格です。元気な時は、とても頑固でした。今も笑ってしまうくらい頑固です。なので母と祖母と私の三人で「病気になっても、ここは変わらないね」と話しています。例えば祖母が「この洋服を着て」と言います。すると「わかった」と返事はしますが、なかなか動きません。そこで、また祖母が同じ事を言うと「うるせいな！わかってるよ」と逆ギレをするのです。たまつたもんじゃありません。祖母も負けずに「ふん」といつて知らんぷりをしています。でも、これが家だから良いのですが・・・一度、一緒に出かけた時に小さい子が、すごく大きい声で泣いていたんです。そこを通る途中で祖父が「うるせいな」

と大声で言ってしまったので、びっくりしました。私は「やばい、やってしまったな」と思いました。そしたら、すかさず祖母が「シ。そんなこと言わないの」と言っていました。でも、これが相手に聞こえていなくて良かったです。祖父の口から、いつ飛び出すか分からないので要注意だと思いました。

最後に現在は祖母は元気で家の事や祖父の世話をしています。でも、もう祖母も六八歳なので、いつ倒れてもおかしくないと思うし、いつ動けなくなってしまうか分かりません。仮に本当にそうになってしまった場合、両親は仕事をしているので祖父の面倒を見れなくなります。そこで祖父のような徘徊などでも入れる有料の老人ホームを調べてみました。すると入会金に八十万円で月額十一万三百五〇円もかかるのです。満足な生活ができるかもしれませんが、お金の問題が我が家を圧迫しそうな気がします。もう一つは近くのデイサービスに通い今までと同じように生活する事は出来ると思いますが、祖父のような条件だと受け入れてもらえるか難しいと思いました。このように最悪な事態を考えましたが私は元気で長生きしてもらい、ずっと一緒に暮らしたいです。だから、もっと高齢者の制度が充実するようになればいいと思いました。